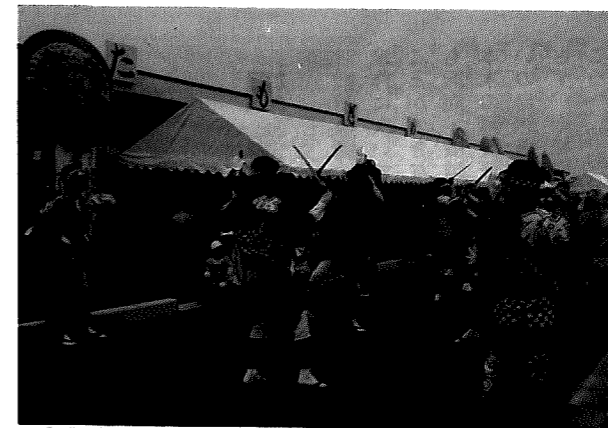


地元の観光特産品販売の拠点
沢海に「たもぎの里」オープン

7月12日、沢海の北方文化博物館の大駐車場わきに、横越観光特産センター「たもぎの里」がオープンしました。
開業記念式典では、はじめに横越町観光特産品販売組合の藤田組合長より「多くの方々のご協力によって、立派なセンターができました。北方文化博物館と共に発展していきたい」とあいさつがあり、テープカット、名称入選者の表彰などが続きました。その後オープンを記念して、沢海神楽保存会による神楽をはじめ、小須戸町の喧嘩太鼓や地元有志による踊りが披露され、バスから降りてきた観光客の人たちもしばし足を止めて見入っていました。
店内には、地元の農産物の加工品や銘菓、おみやげ、新鮮な魚介類などが所狭しと並び、多くの人たちで賑わっていました。



オープンを祝って披露された神楽

「清潔、迅速、加熱」が食中毒予防の3原則
町内で巡回指導・パレードを実施

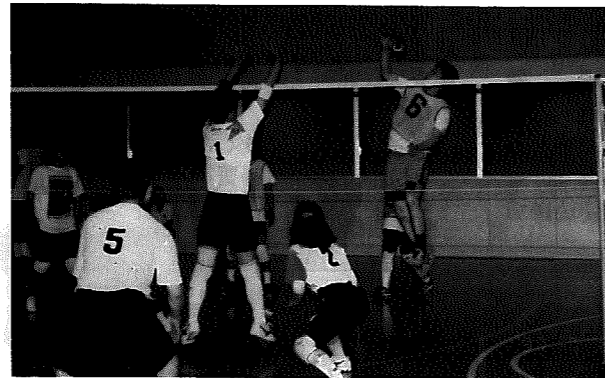
7月16日から8月15日の食中毒予防月間にさきがけ、7月15日に横越町食品衛生協会が中心となって、飲食店等の衛生状態などの巡回指導及び食中毒予防パレードを実施しました。
これは、食中毒が多発するこの時期に合わせて毎年行われているもので、新津保健所の監視員や町の指導員が町内の飲食店等を巡回して、調理室の清潔さの検査、食品の衛生的な取扱いの指導を行いました。続いて、町内全域を車でパレードし、食中毒予防を訴えました。同協会では「清潔、迅速、加熱」を食中毒予防の三原則として、食中毒に注意するよう呼びかけており、昨年に続き今年も集団食中毒事故が全国で相次いでいるために、指導やパレードにも力が入っていました。



車に分乗して町内をパレード

総合体育館でインディアカ大会開催
横越チーム善戦

7月6日、第3回「'97 オールにいがたインディアカ親善大会」が、総合体育館で開催されました。
参加者は、県内各地、遠くは東京などからを含む28チーム、160名あまりが参加。終始和やかな雰囲気の中プレーを行いました。
横越からは、昨年の大会後に結成したばかりの新チームが善戦。入賞こそ逃しましたが、その成長ぶりは各チームより絶賛されました。
最近、インディアカという競技が全国的に盛んになり、全国大会も開催されています。ルールは、バレーボールとほぼ同じなのですが、ボールの変わりにはねつきの羽根を少し大きくしたものを手の平で打ち合うものです。誰もが気軽に、年齢に関係なく楽しくできる新しいスポーツです。



総合体育館でのインディアカの試合

合唱を通じて楽しいひとときを過ごす
～合唱団「のぎく」設立5周年記念コンサート開催～

7月13日、中央公民館で、合唱団「のぎく」設立5周年記念コンサートが行われました。
同コンサートには、120人ほどの観客が詰めかけました。伊藤団長より「合唱団結成以来、みなさんの励ましの中で各地で公演してきました」と述べられたのに続き、団員たちによって「大きな古時計」や「のぎく讃歌」などが熱唱され、中には点字の楽譜を手にしながら歌っている団員の姿もありました。
また、団員とともに観客全員が合唱。「手のひらを太陽に」をみんなで手話を使いながら歌う場面もありました。心のこもった合唱を通じてお互いに打ち解け合い、みんなで楽しいひとときを過ごしました。



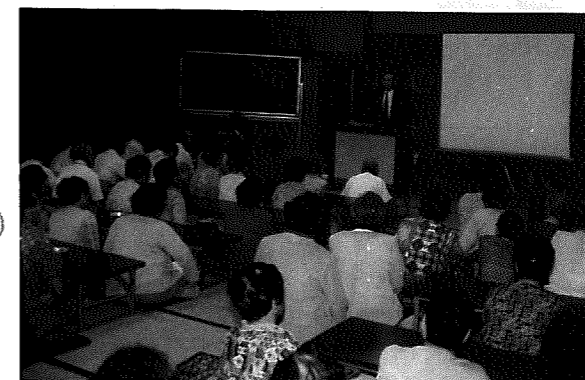
ステージ上で熱唱する団員たち

国道49号の歩道完成を記念して
「横雲祭」多くの人たちでにぎわう

7月20日、横越中央商店会主催の「横雲祭」が、農協Aコープ駐車場をメイン会場として、国道49号の歩道完成を記念して開催されました。
朝早くから地元の野菜や農産物加工品などの売り出し、わたあめやポップコーン、かき氷などの屋台が出店し、多くの人たちでにぎわいました。また、夏の日差しが強い中、中学校バンド部による演奏が披露され、祭りを一層盛り上げていました。午後には小学生対象に商店会加盟のお店をまわる大スタンプラリー、夕方にはカラオケ大会などが催され、詰めかけた人たちは1日中続いたイベントを楽しみ、整備された歩道の完成を祝っていました。



多くの人たちでにぎわう横雲祭



健康教室につめかけたたくさんのお年寄りたち

健康な老後を考える
木津で健康教室開催

6月30日、木津の農業構造改善センターで、木津老人クラブ連合会主催による「介護教室と映写会」が行われ、暑い中、多くのお年寄りが参加しました。
大森会長から日程についての説明があり、横越郵便局長からは「歩くことは健康によいことです。健康には十分気を付けてください」とあいさつがありました。
続いて、老年期をどう生きるかについての映写会があり、その後、残間保健婦から、寝たきりにならないで元気に長生きをするためのお話があり、お年寄りたちは真剣な表情で聞き入っていました。終わりには和やかな雰囲気の中で参加者の血圧測定もあり、参加したお年寄りたちは、健康で充実した生活の仕方を学んでいました。

新鮮さと安さが売り物
横越中地区で朝市開設

毎週火、金、日曜日の午前9時から正午まで、中央公民館近くの町道わきのプレハブ小屋で、朝市が開かれています。
この市は「新鮮野菜販売所」という名前前で6月8日より始められており、農家の方々がその日の朝に収穫したばかりの新鮮な野菜などを持ち寄って販売しており、主に近所の人たちが利用しているほか、通りがかりの人も買い求めています。枝豆やきゅうり、ジャガイモ、ニラ、ゆりの花などを安く販売しています。この朝市は野菜の収穫が終わる秋過ぎまで行われる予定です。



新鮮な野菜が並ぶ朝市

自分なりの味を求めて
手作りビールに挑戦

6月29日、沢海の農村環境改善センターで、AFかがやき主催による手作りビール教室が行われました。
講師には日本自家醸造推進連盟の大桃聰氏を迎え、市販ビールと手作りビールとの違い、作り方の手順などについてお話がありました。続いて実習室では、大桃氏から説明を受けながら、参加者は持ち寄った空きビンの消毒や瓶づめなどを体験していました。参加者の中からたくさんの質問があり、関心の高さが伺われました。
瓶づめの作業が終わった後には、長芋料理をつまみにして、大桃氏の手作り「自」ビールの試飲があり、市販のものとは違う自分だけのビールを作る楽しさを参加者は味わっていました。



講師を中心に説明に聞き入る参加者たち